2022 年度 放送番組審議会 議事録

（株式会社ジェイコム九州 福岡局）

日 時 : 2023 年 3 月 10 日（金）15:00～16:30
場 所 : 株式会社ジェイコム九州 福岡局 会議室

委 員 : 嘱託委員 8 名中 6 名出席(敬称略、順不同)
（会長）石井 幸孝
（委員）魚住 俊治、木本 紳一郎、相川 倉一、圓尾 容子
【リモート参加】佐伯 道郎

事務局 : 株式会社ジェイコム九州		代表取締役社長	上村 忠
		常務取締役 福岡局長	小森 智幸
		取締役	宮島 哲瑞
	福岡局	お客さまサービス推進部	林 剛史
JCOM 株式会社	J:COM プロダクション本部映像制作第一部		
		リージョナルマネジャー	篠原 有
		福岡制作チーム 拠点長	本田 憲生
			牧 幸生

1. 開会事務局挨拶（株式会社ジェイコム九州 上村代表取締役社長）
番組審議会にご出席いただき有難うございます。
皆様と同様にジェイコムもコロナ禍の 3 年間、大変な思いをしてきました。
来年度以降は、自社のケーブルテレビ事業に限らず、地域の活性化にも重きを置きながら
事業活動をしたいと考えています。
本日は、弊社のコミュニティチャンネルに関する審議ではありますが、
ぜひ事業全般に関してもご意見を賜りたいと思っています。

2. 議事進行(石井会長)
委員 8 名のうち 6 名出席につき、放送番組審議会規程第 4 条に基づき当会は成立。
今年からコロナ禍以前のような平常な生活へ戻ると言われているが、
そうではなく時代は、アフターコロナとして変わっていくと思われる。
ウクライナ問題も一年が過ぎ、不安定な時代となり、ここのところマスコミの取り上げる話

題は戦争とスポーツが増える傾向にあるようだ。ジェイコムは身近なものを取り上げる姿勢なので、戦争や事件ではなく「スポーツで行く」という姿勢が大切だと思う。
本日は、そのスポーツに関する番組を中心にご意見を承り、審議したいと思う。

3. 2022 年度放送番組内容について説明
   1）自主番組制作方針
   2）コミュニティチャンネル自主制作番組実績報告

4. 審議
   1）自主制作番組ダイジェスト、『頂-ITADAKI-アスリート』DVD 視聴
   2）審議・意見交換

委員）
福岡は、アマチュアスポーツが盛んだ。世界一のサッカー選手を目指す伊藤選手は、映像を見ても本当に凄いし、それがよく伝わる番組構成になっていた。
プロスポーツを夢見る子どもたちの姿を伝えることは、地域活性に繋がり良いと思う。
ただサッカーなどのメジャースポーツは分かり易いが、剣道などコアなスポーツは、その凄さが伝わりづらい。ルールや彼らの凄さがもっとわかる内容にした方が良いと思う。

委員）
現在のスポーツ界の課題は、子ども達のスポーツ離れが進んでいること。
ボルダリングやスケートボードなどのニュースポーツが人気で、所謂激しいスポーツは敬遠傾向にある。特に高校の部活動は存続の危機にあるので、スポーツの魅力を最大限に伝え、スポーツ人口が増えるような番組にして欲しい。

委員）
番組を通じて出演している子ども達の凄さがわかるプロセスや、親御さんやコーチの気持ちが伝わってきた。剣道のシーンで黙祷の時間があったように、スポーツは勝ち負けだけではなく、そこに至るまでの努力や精神力など学校や家庭では得られないものがある。
そこを伝えて「すごいね」で終わらず「なるほどね」に繋げて、観る人の学びになるような番組にして欲しい。

委員）
私たち地域で活動する団体として、スポーツの普及について一気にハイレベルなことをやるよりも、『スポーツ楽しいよ』というきっかけ作りを意識して活動している。
触れたことのない世界の楽しみを知るためには、『頂-ITADAKI-アスリート』のような番組が必要だと感じる。ただ頂点だけでなくハードルが低い部分も拾ってもらえると嬉しい。

委員）
選手の取り上げ方として、本人のプレーや目標とする言葉があり、ご両親や指導者の方の言葉もあったのは良かった。剣道の話題もストーリー性がしっかりしていて共感できた。
二極化しているスポーツ業界の中で番組テーマは“頂上”。そういった意味では、
そんな世界があることを知るきっかけとして子ども達には非常に良い番組だと思う。
剣道の“頂上”は全国大会で優勝することだとイメージできるが、サッカーではスペインの「レアル・マドリード」と聞いてピンと来る人がどの位いるのか疑問。
具体例として、ヨーロッパの一流の選手になれば年俸がこれくらいなど、
サッカーを知らなくても分かる“頂上”の見せ方があればよかった。

委員）
サッカーでは、伊藤選手の素晴らしい部分を取り上げていたが、少年としての平凡な一面や努力があって辿り着いた面を出すことで「僕も頑張ろう！」と思わせる見せ方もある。
現在、アマチュアスポーツの世界は二極化しており、クラブスポーツと部活動との関係や中学での指導者不足など課題が多い。その部分にも今後は着目してもらいたい。

事務局）
今回、審議対象とした『頂-ITADAKI-アスリート』は、“頂を目指す人”や“何かを成し遂げた人”たちに焦点をあて制作している。スポーツの裾野を広げる取り組みは別途検討する。

３）その他番組について

委員）
ライジングゼファー福岡の試合は、NET 上で配信しているが、まだ浸透しておらず、
関係者やファンによる視聴が主流である。ジェイコムが試合を放送すると周りで「見たよ」という声をよく聞く。昨今はテレビ離れと言われているが、やはりテレビの影響力は、根強いと感じる。

委員）
基本的にスポーツはプレーする人、観る人、それを支える人がいる。
そこをいかに囲い込むかが大事。難しいのは若い人が新聞やテレビを
見ない状況下にあること。それを念頭においた策が必要になってくる。

委員）
安心安全を伝える役目がコミュニティチャンネルだと思う。
視聴者にとって災害など何かあった時に「ここを見たらいいよね」がそのキーワード。
台風や地震があったときに「ジェイコムを見よう」と位置づけるためには、
中途半端ではなく徹底的にやることで地域に根ざすのではないか。

またレギュラー番組の『ふくあじ』だが、より人の良さやお店の温かさを伝えてほしい。
視聴者も流行っていることやお店自体は既に知っている。
それを分かった上で伝え、誰かに伝えたくなるような戦略が練られたら良い。

委員）
ぜひ今後も地元に浸透する番組作りを心掛けて欲しい。
またせっかく良い番組を作っているので、YouTube や WEB 上に情報があると良い。
今の時代、後から思い返して検索することも多いので。
スポーツにおける指導者不足などの地域の課題もジェイコムの持っている人脈でマッチングできれば解決できるのでは。ソリューションビジネスに繋がると感じた。

委員）
スポーツはジェイコムが力を入れている分野でもあり、
これまで取り組んできたなかで一つの大きな壁とも言える。民放でもスポーツの
長寿番組があるように、ジェイコムでもスポーツの名物番組ができると良い。

事務局）
YouTube や動画、WEB 上での検索については、著作権の問題があったり、第三者に二次利用されたりと非常に厳しい部分がある。
その辺りを考慮しながらアナログ的な継続性を重視し、きめ細かくサポートしていくことが目指すべきところだと考える。地域ごとに一律じゃないのがケーブルテレビ。コンセプトをしっかり定めた上で、番組コンテンツを制作していきたい。

委員）
小学生までは地域のイベントに参加するが中学生になった途端に出なくなる。
そこをどうすれば興味を引くかを考えており、IT を切り口にしたイベントを考えている。
ただ、地域イベントとして継続するには自分達だけでは難しい。
そこでジェイコムの力を借り、いずれはジェイコムカップなど大会にできたら
需要もあると思う。

事務局）
いろいろな制限はあるが実現可能の範囲と考える。
現在、メタバースとリアルをどう紐づけるかを技術的に研究しており、それはブランディングにもつながる部分。結果を出すために e スポーツを活用するのはその通りだと思うし、イベント運営の実績もあるジェイコムが得意とすること。
各地でボンバーマンの大会やテトリスとフィットネスを組み合わせたゲーム大会など
開催実績もある。子ども達のスポーツへの貢献はジェイコム九州とし 20 年近く主催しているサッカー大会があり、そこに番組制作を融合させ地域に発信している。

ジェイコムと一緒にやりたいと、ご相談いただければ前向きに取り組んでいきたい。

株式会社ジェイコム九州 上村代表取締役社長）
今年はいよいよアフターコロナ、これまでコロナ禍に出来なかったイベント活動を
計画する中で、３年前と同じことは社会情勢上できない。
だからこそ、工夫をしながら地域やスポーツを盛り上げていきたいと思う。

5. 閉会挨拶
株式会社ジェイコム九州 宮島取締役）
本日はスポーツへの理解を始め、様々な観点から貴重なご意見をいただきありがとうございました。いただいたご意見について実現性を含め検討し、可能なものから次回の番組制作に反映させていきたい。
今後も、審議委員の皆様を始め、地域の方々やお客様のご意見を取り入れ、制作技術の向上に努めて本当に魅力ある番組づくりを目指したいと思う。

以上、閉会